

事業所名	グループ ホームあかり (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成20年12月 4日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 介護支援専門員 資格・経験 ホームヘルパー2級、介護福祉士、介護支援専門員、認知症ケア専門士 B:現職 介護事業所管理者 資格・経験 ホームヘルパー2級
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述) <ul style="list-style-type: none"> ・ホームは、日赤病院の北西にあり、近くには病院や各種の商業施設がある。開発目覚ましい地区ではあるが、ホームは大通りから一歩中に入った住宅地の中にあり、近隣の騒音も無い静かな環境である。 ・代表者が地区の住民でもあり、ホームも町内会の一員として地域の中に溶け込み、地域との交流も盛んに行われている。 ・管理者は、ホーム建設の設計段階から業者と綿密な打ち合わせを行っている。トイレの広さ、階段の幅、手すりの位置と太さ、オープンキッチンや非常脱出スロープ等、至る所に入居者への配慮があり、住みやすく安全な暮らしを入居者へ提供している。 ・ホームは2階建ての建物で、2階部分に入居者の居室がある。居室へは、明るい日差しが窓越しに射し込んでおり、居心地良く過ごせる空間となっている。 ・道路の反対側に庭があり、安全な環境の中で日向ぼっこや花壇の手入れ等ゆっくりと楽しめる。 ・日中は1階のホールに全員が集まり、作業や体操をしながら和気藹々と過ごしている。2階の居室へは、階段を使って上り下りすることで、自然に下肢筋力の低下を防いでいる。 ・職員の異動がなく、入居者・家族との関わりを大切にしながら、入居者が安心して過ごせる生活の場を提供している。 ・今出来る最高のサービスを提供し、入居者・家族が「あかり」を選んで良かったと思えるホーム作りを目指している。 ・認知症介護は、「安心・安全」が主体であり、ともしれば忘れてしまう「ゆとり・心の豊かさ」の必要性を「あかり」で感じた。入居者は、ゆっくりと流れる時間の中で、生き生きと自分らしく暮らしている。管理者の「今生きている瞬間を大切に、今しか出来ないことをしてあげたい」との思いが伝わってきた。
特に改善の余地が有ると思われる点(記述)
<ul style="list-style-type: none"> ・現在、年2回、運営推進会議を開催している。今後は、地域との盛んな交流を生かし、地域への参加をさらに呼びかけ、運営推進会議で取上げられた内容をホーム運営に活かし、また、地域との交流行事等も企画し、より地域に根付いたホームとして発展していかれることを期待する。 ・管理者・職員は、同じ思いで日々業務に取り組んでいる。今後は、後継者の育成も視野に入れ、入居者の「明るく笑顔のある」暮らしの継続に向けて一層励んでいかれることを期待する。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述) <ul style="list-style-type: none"> ・筋力体操・階段の昇降・散歩・食事の支度等、日々の暮らしの中で自然に筋力の維持・向上を図り、出来る限り自力で歩ける暮らしの継続をめざしている。 ・職員がゆとりを持って仕事出来るよう、運営基準より多く職員を配置している。また、作業の省力化を図り、入居者と触れ合う時間を増やすようにしている。職員に対して、インフルエンザの予防接種や食費等の補助も行い、働きやすい環境を整えている。職員の心のゆとりは、入居者への手厚い介護へと繋がっている。 ・入居者の楽しみごとが一つでも多く行えるよう、経費の節減に努めている。 ・入居者に笑顔で過ごしてもらえよう、入居者の今の暮らしを大切に、穏やかな気持ちで過ごしてもらえようの提供に努めている。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述) <ul style="list-style-type: none"> ・職員は、入居者の話にゆっくりと耳を傾け、言葉はもちろん、その表情や態度からも入居者の想いを受け止めるようにしている。 ・帰宅願望がある方には、そばで見守り、時には外に出かけて気分転換を図る等、本人の気持ちに寄り添った支援を心がけている。また、落ち着かない様子が見られる時は、隣に座って入居者に優しく触れながらコミュニケーションを図り、穏やかな気持ちで過ごしてもらえようように努めている。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症への対応に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述) <ul style="list-style-type: none"> ・入居者一人ひとりの経験や能力を生かせるよう、旅館に勤めていた人には料理の盛り付けや果物の皮むきをお願いし、看護師だった人には脈拍を測る手伝いを一緒にしてもらい、手芸の得意な人には古いタオルを縫って雑巾を作ってもらうなど、出来ることや得意なことを自分からしたくなるように働きかけている。 ・居室の入り口には障簾を掛け、戸を開けても室内が見えないようし、プライベートな場所でのプライバシーを損ねることがないように配慮している。 ・管理者は、「ホームは皆で助け合って生活する所」と考えており、入居者一人ひとりが自分でできることを尊重し、職員が協力しながら入居者の暮らしを支えている。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述) <ul style="list-style-type: none"> ・出来る限り日中の活動を増やし、夜間熟睡できるように取り組んでいる。入居時、睡眠パターンが崩れていた方が、徐々に入居前に使用していた薬を減らしていき、現在は通常の生活が出来るようになっていく。 ・健康維持のため、食事は残さず全量食べてもらうことを目標にし、季節の食材を利用し、食事を楽しむ工夫をして入居者の健康を支援している。 ・サービスの質の向上に向け、職員の資格取得を全面的に応援しており、費用もホームが援助している。また、管理者が不在の時に支障が無いよう、責任者の育成をしていきたいとも考えている。 		